開隊前 1

旧日本海軍小松島海軍航空隊

● 世の中の出来事 ●
S16 太平洋戦争開戦
S17 ミッドウェー海戦
S18 学徒出陣
S20 広島、長崎に原爆投下・終戦

初代司令古瀬貴季大佐による優勝旗授与

隊員300名の水上機部隊

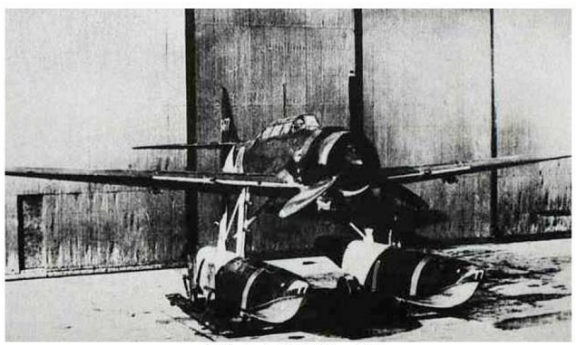
小松島海軍航空隊は昭和16年10月1日発足しました。翌17年に第12連合航空隊に編入され、水上機約10機、隊員約300名を擁する練習航空隊として水上機の操縦や偵察術の教育訓練が行われました。

昭和19年に練習航空隊の指定を解かれ、第903海軍航空隊に統合。主に紀伊水道での哨戒や船舶の護衛を行いました。

昭和20年8月終戦により部隊は解隊され、米第11野砲連隊や英連邦軍が進駐し、その後、昭和24年5月に国有財産として大蔵省四国財務局徳島財務部で管理されました。

小松島海軍航空隊の搭乗員

持久走訓練の様子



高速水上偵察機　瑞雲

小松島湾で訓練中の水上機

開隊前 2

小松島航空基地ができるまで

● 世の中の出来事 ●
S31 日ソ共同宣言
S33 東京タワー完成
S36 ソ連有人宇宙衛星打ち上げ
S39 東京オリンピック開催

地域住民の理解を得て着工

終戦後、基地施設は取り壊され荒れた状態で放置されていましたが、昭和34年10月に防衛庁は小松島市に海上自衛隊のヘリコプター基地の建設を申し入れました。

騒音問題や漁業への影響などで基地建設に反対の意見もありましたが、昭和38年7月16日に防衛庁、小松島市、和田島漁協組の間で補償に関する覚書が調印され同年9月より基地の建設が始まりました。

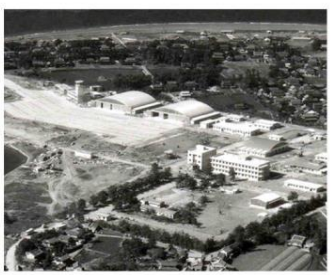
昭和39年11月20日に臨時小松島派遣隊が発足し開隊の準備を行いました。

昭和34年 上空から見た小松島海軍航空隊跡地
正門からの松並木は今も残る

コンクリート製の堅牢な庁舎施設
平成24年まで庁舎として使われた

昭和36年頃の基地すべり地区
昭和21年の南海地震被害を受ける

昭和38年 基地建設調印時の様子
左から大阪防衛施設局長、小松島市長
和田島漁協組合長



S39. 10. 28 完成間近の基地施設

S39. 11. 26 第3航空群(現徳島教育航空群)
を出発する臨時小松島派遣隊要員

S39 臨時小松島派遣隊正門

1965年

小松島航空隊開隊

● 世の中の出来事 ●

S40 朝永振一郎ノーベル物理学賞

ベトナム戦争本格化

小松島航空隊は、昭和40年3月25日航空集団第21航空群隷下の哨戒ヘリコプター部隊として開隊されました。

ＨＳＳ-１Ｎ哨戒ヘリコプターを9機装備し、周辺海域の防衛、沿岸防備、海上交通の保護、災害派遣民生協力、航空救難の任務にあたり、日本の海上交通でも重要な紀伊水道や豊後水道、瀬戸内海とそれに連なる沿岸海域の防衛の一翼を担いました。

正門に新しい看板を掲げる初代司令江藤１佐

開隊記念行事

工事関係者への感謝状贈呈

祝賀飛行

航空機の地上展示

（正門の様子）

（救命ボートなどの展示）

（落下傘などの展示）

開隊記念行事での小松島航空基地一般公開の様子

S40.3.25 ＨＳＳ－１Ｎ哨戒ヘリコプター9機配備

S40 小松島市上空を飛行するＨＳＳ-1Ｎ

S40 開隊当時の小松島航空基地

S40 開隊当時の総員写真

1966年～

昭和41年～44年の記録

● 世の中の出来事 ●
S41 ザ・ビートルズ来日
S43 小笠原諸島返還
S44 アポロ11号月面着陸
東名高速道路全面開通

「何事にも挙隊一致、即ち和衷共同の精神の醸成高揚、更に如何なる難事にも積極進取の気概を持ち乗り越えよ」という初代司令江藤１佐の誓いのもと、小松島航空隊の歴史が始まりました。
訓練や災害派遣、洋上救難や基地周辺で発生した火災の消火活動などに挙隊一致で取り組み、小松島航空基地の礎が築かれました。

S42 上空から見た小松島航空基地

S42 管制塔とＨＳＳ-1Ｎ哨戒機

S42 基地施設の様子（本部庁舎と隊舎）

S43. 5. 23 第16宝山丸転覆座礁救助

S43. 7. 28 小松島市内台風被害による災害派遣

S42 すべり地区での揚陸訓練支援

S41. 10. 23 運動会

S42. 5. 13 隊内相撲競技

S43. 10. 29 保健行軍

S42 潜水艦と訓練を行うＨＳＳ-1Ｎ

S43. 3. 24 開隊３周年記念行事

1970年～

昭和４５年～５４年の記録

● 世の中の出来事 ●
S45　よど号ハイジャック
S47　沖縄返還
S48　オイルショック
S53　日中平和友好条約調印

昭和46年3月1日に新しくＨＳＳ－２哨戒ヘリコプターが配備されました。以前のＨＳＳ-1Ｎ哨戒ヘリコプターと比べ、エンジンのパワーや潜水艦を捜索する能力が大幅に向上し、より精強な航空隊となりました。

昭和45年に娯楽センター、昭和47年には水泳訓練用プールが完成し、昭和48年2月には地域住民による小松島航空隊を支援協力する「松空会」が結成されました。

S51 上空から見た小松島航空基地

S46.3　ＨＳＳ-1Ｎ哨戒ヘリコプター配備替え見送り

S46.3.1　ＨＳＳ－２哨戒ヘリコプター配備

S46.12　航空機点検のためエプロン地区に並ぶＨＳＳ－２哨戒ヘリコプター

S46　訓練魚雷を投下するＨＳＳ－２

S46　機体を洗浄する整備員

S45 潜水艦とＨＳＳ－２

S47.5 砕氷艦「ふじ」着艦訓練

S48.2 練習艦「かとり」とＨＳＳ－２

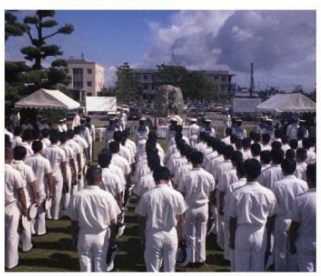
S45.8.27 自衛艦隊司令官による訓練視察

S47.8　訓練水槽（水泳訓練用プール）完成式

S47.11 和田島小学校防音校舎落成式

S47 管制塔１階委託喫茶の様子

S48.2.1 司令交代行事
酒井１佐から東條１佐



S53.8.19　慰霊碑除幕式

小松島航空基地の歴史1970年～

S46.6.4　小松島港に入港したイギリス海軍艦艇乗員との交流

S48.11　隊員家族も参加した基地運動会

S50.4.30 開隊１０周年記念演芸大会

S53.3.25 すべり地区に上陸するＰＳ－１飛行艇

1980年～

昭和５５年～平成元年の記録

● 世の中の出来事 ●
Ｓ55　モスクワ五輪（日本不参加）
Ｓ58　三宅島大噴火
Ｓ59　グリコ森永事件
Ｈ１　ベルリンの壁崩壊

昭和62年12月、小松島航空隊は、部隊改編により、航空集団第21航空群隷下から呉地方隊隷下に編入されました。昭和63年にはＨＳＳ－２哨戒ヘリコプターより更にエンジンの馬力と潜水艦捜索能力が向上したＨＳＳ－２Ｂ哨戒ヘリコプターが配備されました。

H1　上空から見た小松島航空基地

S59 正門から庁舎を望む

S63 揚油作業の様子

S58 飛行前に翼を休めるＨＳＳ－２

S59.1 建設中の大鳴門橋上空を飛行するＨＳＳ－２

S55.2　冬季救命生存訓練

S59　救難消火訓練

S59 救命器材整備

S59 訓練魚雷を搭載する整備員

S59 電子機器を整備する整備員

S63 ソーナーを海中に下ろし潜水艦捜索訓練を行うＨＳＳ－２Ｂと搭乗員

S62 魚雷投下訓練

S60.5.25 開隊２０周年記念行事

S63.12　航空機点検

S62.12.1 呉地方総監巡視

S62 車両点検

S58.4.4 警衛班事務室開所

S61.2.11　日和佐町で発生した山林火災への災害派遣

小松島航空基地の歴史1980年～

S62.8.15 松空連阿波おどり

S59 基地バレーボール競技

S59 基地ハンドボール競技

S59 体育大会

S58.4 テニスコート完成

S59 食堂の様子

S62 売店の様子

S62 医務室での診療

1990年～

平成2年から１１年の記録

● 世の中の出来事 ●
H3　ソビエト連邦解体
H7　阪神淡路大震災
H10 北朝鮮テポドン１号発射
H11 能登半島沖不審船事案

平成４年に体育館・プール、平成５年には第２隊舎や車両整備場が新設されました。また、平成７年に発生した阪神淡路大震災では、１月１７日から３月３１日までの間、被災地周辺で救援活動を行いました。

H11 上空から見た小松島航空基地

H11.1 初訓練飛行

H11.12 明石海峡大橋上空のＨＳＳ－２Ｂ

H2.5.20 開隊２５周年記念行事

H4.4 建設中の第２隊舎

H4.6 建設中の第２隊舎

H5.1.18 第２隊舎新設

H3.12 建設中の体育館等施設

H4.5.17 体育館施設等落成式

H7 支援船操船訓練

H7.12 ＨＳＳ－２Ｂ ０５号除籍

H11 和田島クリーン作戦

神戸市の王子グラウンドに着陸し救援物資を届けるＨＳＳ-２Ｂ

阪神淡路大震災での活躍

小松島航空隊は、平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災で、被災地の状況偵察や救援物資輸送などを行いました。

被災地に近い航空部隊としていち早く被災状況を偵察し、合計17トン以上の救援物資を被災地に空輸しました。救援物資の中でも、小松島航空基地や和田島小学校で作られた食事は暖かいうちに空輸され、被災者の方々の体と心を暖めました。

同年3月31日まで、小松島航空隊のＨＳＳ－２Ｂ哨戒ヘリコプターの延出動機数は122機を数え、延飛行時間は356.8時間に達しました。

震災発生から３日後の1月20日、奈良県の天理中学の生徒と父兄の方々が作ったおにぎりなどを被災地に輸送する際、生徒から色紙とシクラメンの花を託されました。受け取った隊員は、被災者を激励する品だと思いましたが、なんとそれらは隊員達を激励するものでした。シクラメンの花は不休で活動する隊員を癒し、色紙の文字は任務完遂への情熱を湧き立たたせ、隊員達は被災地のために奮闘しました。

天理中学の生徒から贈られた色紙とシクラメン

小松島航空基地で被災地への食料を温める隊員

和田島小学校で作業を行う隊員

ＨＳＳ-２Ｂへの救援物資搭載

被災地への夜間救援物資輸送

状況偵察で撮影した被災地の様子

ホワイトフジ号の救助活動

平成11年4月2日深夜から3日明け方にかけ、潮岬沖で強風のため荷崩れを起こしたパナマ船籍ホワイトフジ号乗員の救助活動を行いました。

悪天候の中、深夜から明け方にかけて常時2～3機のHSS-2Bを派遣し、乗員9名を救助しました。

非常に危険で困難な任務でしたが、隊員は普段の訓練の成果を発揮して救助に成功、その活躍は「強風つき深夜の救出（小松島海自）」「荒天の中死闘8時間」と新聞等で報道されました。

当時、救助活動に当たった機長は、「救助活動のため、船の上空でホバリングしていると、大きな波に揺られた船体が上下し、船のマストがヘリコプターに突き上げてくるようで生きた心地がしなかった。救助者を南紀白浜空港へ無事搬送し終えた時は、尊い人命を救助した達成感で思わず涙がこぼれた。」と語りました。

事に臨んでは危険を顧みず任務に臨む姿は、ホワイトフジ号の救助活動のみならず、幾多の「現場」で高く評価されています。

ホバリングし救助活動を行うＨＳＳ-２Ｂ

救助される乗組員

救助者の確認作業を行う搭乗員

南紀白浜空港に搬送された乗組員

その他救助活動の一例

H9.11.1 貨物船で発生した急患者の救助活動

H12.10.8 ヨシウミ号火災海難事故救助活動
（乗組員16名を救助）

2000年～

平成12年から21年の記録

● 世の中の出来事 ●	
H13	米国同時多発テロ
	海上自衛隊インド洋派遣
H15	自衛隊イラク派遣
H19	防衛庁から防衛省に昇格

新しい管制塔、格納庫、滑走路、燃料庫などの施設が次々と完成しました。新しい滑走路により、離着陸するヘリコプターの弱点である右横方向からの風が減少されるなど、より安全で機能的な航空基地となりました。

平成１３年、ＳＨ－６０Ｊ哨戒ヘリコプターの配備が開始され、部隊改編により平成２０年３月２６日「小松島航空隊」は、第２２航空群（長崎県大村市）隷下の「第２４航空隊」として新編されました。

H17 滑走路建設移行期の小松島航空基地

H15.12 航空機点検

H15.7 課業整列

H13.8.29 ＳＨ－６０Ｊ配備

H14.12.1 ＨＳＳ－２Ｂ最終フライト

H18.8.3 新滑走路完成

H18.7.7 新燃料庫完成

H18.9.15 新管制塔完成

H14.4.15 武器救命整備場完成

H14.12.1「感謝デー」基地一般公開

H15.9.1 委託売店オープン

H19.2.2 ＰＫＯ派遣隊員壮行会

H16.6.26 ２５万回無事故管制達成

H14.2.15 飛行安全77777基準時間達成

H16.4.23 開隊４０周年記念行事でのＬＣＡＣ走行展示

H21.3.17 小松島市消防との合同消火訓練

H16.6 基地ソフトボール競技

H17.3 基地駅伝競技

H21.7 飛行幹部候補生100km行軍

小松島航空基地の歴史2000年～

H20.3.26 「第２４航空隊」新編総員記念写真

H20.3.26 庁舎看板披露

第２４航空隊新編

平成20年3月26日、「小松島航空隊」は、呉地方隊隷下から、第２２航空群（長崎県大村市）隷下となり、「第２４航空隊」と名称を変更し新編されました。

第２４航空隊は艦載部隊となり、それまでの小松島航空基地を中心とした沿岸防備と周辺海域の防衛を行う部隊から、新たに護衛艦にヘリコプターを搭載して日本周辺や海外で活躍する部隊に生まれ変わりました。

H20.3.26 司令訓示

H20.3.26 松空会寄贈スコードロン看板披露

H20.3.27 第２２航空群司令初度巡視

2010年～

平成２２年からの記録

● 世の中の出来事 ●
H22　尖閣諸島周辺での問題浮上
H23　東日本大震災
H24　ロンドン五輪開催
H25　富士山世界文化遺産登録

平成２４年２月に新しい庁舎が完成し、旧海軍時代に建てられた旧庁舎はその役割を終えました。歴史的な価値もありましたが、耐震性などの問題もあり、惜しまれながら取り壊しが決定しました。

平成２３年に発生した東日本大震災では艦載航空部隊としての実力を発揮して被災者の救援活動に貢献し、これを教訓に今後危惧されている南海トラフ大地震被害に備える訓練を実施しています。

また、海外での訓練や平成２６年にはソマリア沖派遣海賊対処行動に参加し、「世界で活躍する第２４航空隊」となりました。

H26 上空から見た小松島航空基地

H24.2.27 新庁舎完成

H26.7.9 ソマリア沖派遣海賊対処行動派遣隊員出国行事

東日本大震災での活躍

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、第２４航空隊はＳＨ-60Ｊを護衛艦「さわぎり」に搭載し、救援物資輸送、患者の輸送、行方不明者の捜索などを行いました。道路が寸断された地域や、ライフラインの断たれた離島ではヘリコプターによる救援活動が最も効果的でした。

小松島航空基地では、大津波警報により地域住民避難所を設け、基地に避難した方々の安心、安全を確保しました。

H23.3.22 孤立した離島に救援物資を輸送するＳＨ-６０Ｊ

H23.3.15 補給艦での救援物資搭載

H23.3.11 小松島航空基地へ避難する地域住民

SH-60J操縦士 柴田３佐

「心をひとつにした任務」

災害発生後、護衛艦「さわぎり」に緊急搭載、翌日には現場に到着し、孤立者の捜索・救助、孤立地域への救援物資の輸送、患者の輸送、行方不明者の捜索、ご遺体の搬送などを行いました。

洋上で様々な護衛艦に着艦し、ＳＨ-６０Ｊへの給油を繰り返し、７時間を越える飛行作業など苦労もありました。しかし、被災地で救助の為、田んぼやグラウンドにホイストで降下する度に泥だらけになった航空士、泥だらけになった機内を清掃してくれた整備員、救援物資の仕分けを行ったり、海上で収容したご遺体を機内に運んでくれる護衛艦の乗員、輸送した救援物資の積み下ろしをしてくれる陸上自衛隊の隊員など、皆「心をひとつ」にして頑張りました。

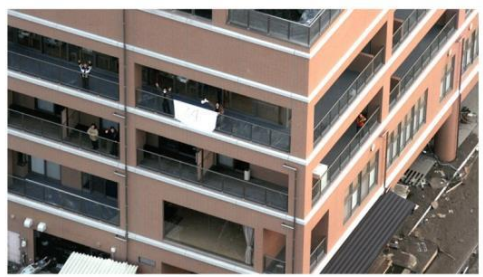
SH-60J操縦士 緒方１尉

「災害は突然ふりかかる」

この言葉が今回の震災対処で一番感じたことでした。我々自衛官は、いつ訪れるかわからない有事を想定し、不測の事態に備えています。そんな中、「突然ふりかかった災害」に対応すべく四国から東北へ活動の拠点を移し、洋上における捜索救助を行うことになりました。

東北の空を飛んだ経験はなく、見る景色、天気現象等初めてのものばかりです。しかし、被災者の方々から見れば、飛行服を着てヘリに搭乗する我々は自衛隊員の一員であり、期待を裏切ることはできません。また、第２４航空隊の代表として、その責任を果たさなければなりません。この重圧の中、少しでも被災者の方々の役に立ちたいという思いで無我夢中で任務に臨みました。

校庭に書かれたメッセージ「自衛隊のみなさんガンバって！」



H23.3.13 宮城県亘理郡のホテルからＳＨ－６０Ｊに救助を求める避難者。この後、２４空と陸上自衛隊のヘリコプターが協力し、避難者４２名全員を救助した。